

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
性能	講義		1	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	真境名 元行
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車の各種性能に関する工学的な知識を習得する。
使用教科書・副教材等	二級自動車整備士(総合)・自動車基礎工学(日本自動車整備振興会連)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習の取り組み	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① 基礎用語 ② 熱効率及び仕事効率 ③ 制動性能 ④ 走行性能における駆動力 ⑤ 自動車走行試験 ⑥ 計算問題	4	自動車性能に関する基礎用語について理解を深める。	①～⑥
			5	内燃機関における熱効率及び、仕事率について理解を深める。	
			6	各種抵抗、駆動力、車速や加速、走行性能線図、制動距離や停止距離、制動力分配などについて理解させる。	
			7	駆動力、駆動動力、出力、仕事量、仕事率を諸元を元に計算し値を求める。	
			8	全般の計算問題を行い、計算方法などを理解を深める。	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
エンジン整備法	講義	年単位時間	1	0	学 年	二年次
			前期	後期	教 員	真境名 元行
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エンジンの基本構造及び各部品類の構造を学び、理解する事でそれぞれに対応する整備法を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連) 二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 二 学 年	前 期	① 燃料装置	4	燃料装置の構造機能及び整備法を理解する。	①～③
		② コモンレール式高圧燃料 噴射装置の構造・性能	5		
		③ コモンレール式高圧燃料 噴射装置の制御・整備法	6	電子制御式燃料噴射装置の構成及び構造、機能、整備法を理解する。	
			7		
			8	サプライポンプ、インジェクタの構造及び制御、整備法を理解する。	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
3					

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
シャシ整備法	講義	年単位時間	1	0	学 年	二年次
			前期	後期	教 員	宮城 秀太
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	シャシの点検・整備に当たり、その構造・機能を理解し、適切な工具や計器を使用して正しい作業手順を習得することで技術の向上に役立てる
使用教科書・副教材等	二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーにて一般整備・点検整備・車両検査業務などの実務経験あり

2 追試験基準

前期試験	試験50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	授業態度	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① オートマチック・トランスミッション ② フレームとボデー ③ 空気調和装置(エア・コンディショナ) ④ SRSエア・バック プリテンショナ・シートベルト ⑤ パワーステアリング (操舵力倍力装置)	4	⑤パワーステアリング(操舵力倍力装置) 1、保守に係る点検・整備及び不具合時における着目点。	①～⑤ 前期試験
			5	①電子制御式オートマチック・トランスミッション 1、車載状態における点検・整備。	
			6	2、車両からの脱着及び分解、組付手順。 3、不具合が発生しているときの着目点。	
			7	②フレームボデーの亀裂処理及び補強作業。 ③ゲージ圧等からの不具合箇所特定。サイクル間不具合の症状。	
			8	④SRSエア・バック及びプリテンショナ・シートベルト 2、脱着時の注意事項・取外し、取り付け手順及び作動後処理。	
	後 期				

6 特記事項

教科書をベースに作成したパワーポイントにて動画やシュミレーターを駆使し構造や作動の講義を行います。また、部品単体等を用意し現物確認をしながら教科書と二級自動車整備士試験との関連を深めて国家試験対策に繋がります。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
電装整備法	講義	年単位時間	1	0	学 年	二年次
			前期	後期	教 員	宮城 秀太
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	電装品の整備方法を理論的に学習し、測定・検査機器の使用方法を理解することで安全で確実な整備ができる知識を習得している。
使用教科書・副教材等	二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期試験	試験50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	70 %	仮評価		
	学習に対する取り組み	30 %			
		%			
		%			

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① CAN通信システムの整備 ② カーナビゲーションシステム ③ 各種計器類 ④ まとめ	4	CANバス・ライン修理における注意点、終端抵抗修理における注 意点、配線図の読み方の知識を習得する。	①～④
			5	カーナビゲーションシステムの仕組みについて理解させる。	
			6	コンビネーションメータの計器類の構造、原理について理解させ る。	
			7	1年次の内容を含め復習を行い、知識を定着させる。	
			8		
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
3					

6 特記事項

基本パワーポイントにて動画、シミュレータを駆使し、整備手順を理解し必要に応じて単品部品等を用意し現物確認をしながら教科書、自動車整備士過去問との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
電子制御装置(エンジン)	講義	年単位時間	2	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期 40	後期 0	教 員 実務経験	真境名 元行 有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	ガソリンエンジン及びディーゼルエンジンの電子制御に関することを理解すると同時に、実際に現場で活用できる能力を習得する。
使用教科書・副教材等	二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会) 三級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーにて一般整備・点検整備・車両検査業務などの実務経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① 電子制御装置	4	電子制御システムの概要、構造、作動、制御内容(燃料噴射制御、点火制御、ISC制御、電子スロットル制御)について理解を深める。	①～④
		② ジーゼルエンジン本体	5		
		③ 排気ガス後処理装置	6	ガソリンエンジンとの違いを学習することでディーゼルエンジンの基礎と 原動機の構造をしっかりと学習。	
		④ コモンレール式 高圧燃料噴射装置	7	ディーゼルエンジンにおける排気ガス後処理装置の概要、名称と構造 及び作動の理解を深める。	
			8	コモンレール式高圧燃料噴射装置の概要、構造、作動について理解を深める。	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
電子制御装置(シャシ)	講義	年単位時間	2	0	学 年	二年次
			前期	後期	教 員	宮城 秀太
			40	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車のシャシに関する機構学や構造について学習することで探求心を高め技術の向上に役立て二級自動車整備士取得に向けた対策
使用教科書・副教材等	二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会) 三級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーにて一般整備・点検整備・車両検査業務などの実務経験あり

2 追試験基準

前期試験	試験50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	60 %	仮評価		
	授業態度	20 %			
	出席率	20 %			
		%			

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① オートマチック・トランスミッション ② フレームとボデー・安全装置 ③ 空気調和装置(エア・コンデ'イション) ④ 自動車の諸元 ⑤ ブレーキ装置 *油圧、エア・ブレーキ *安全装置、ABS 制動倍力装置、etc	4	⑤ブレーキ概要、油圧式ブレーキ、安全装置、制動倍力装置、パーキング・ブレーキ、ABS、エア・油圧式ブレーキ、フル・エア・ブレーキ、エキゾースト・ブレーキ等の概要、種類と名称、構造の理解を深める。	①～⑤
			5	①オートマチック・トランスミッション 1、構造、機能、名称を理解し学習する。	
			6	2、プラネタリ・ギヤの構造、作動原理を理解、習得させる。 3、トルク・コンバータの原理、作動を理解させ、性能曲線図の見方、計算問題の解き方を習得する。	
			7	②フレームボデーに要求される機能、構造を理解し特徴を把握する。 安 全装置の構造・機能について理解させる。 ③構造、機能、名称を理解し、制御方式の違いを学ぶ	
			8	④自動車の諸元 1、自動車の性能、特徴など、統一規格を理解し計算力を向上させる。	
	後 期				

6 特記事項

教科書をベースに作成したパワーポイントにて動画やシュミレータを駆使し原理や作動の講義を行います。 また、単品部品等を用意し現物確認をしながら教科書と二級自動車整備士試験との関連を深めて国家試験対策に繋がります。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
電子制御装置(モータ)	講義		1	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	宮城 秀太
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近年自動車の電子化に伴い、その電気・電子の基礎及びハイブリッドや電気自動車の概要を学習し技術の向上へ役立てる。
使用教科書・副教材等	電装品構造(全国自動車整備専門学校協会) 二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	①モーターの特徴	4	①エンジンとモーターの違いを理解する ②電気自動車等の仕組みと種類を知る	①～⑤
		②HV・BEV	5	①エンジンとモーターの違いを理解する ②電気自動車等の仕組みと種類を知る	
		③コンバータ・インバータ	6	③コンバータ及びインバータの制御を理解する ①駆動用モータ及びジェネレータを理解する	
		④駆動用バッテリー	7	④駆動用バッテリーの構造及び種類について理解させる	
		⑤電気自動車等の整備	8	⑤電気自動車等の整備及び注意点について理解させる	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
故障探求	講義		0	2	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	真境名 元行
			0	24		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車の故障探究について学習することで探究心を高め、理論的、効率的な故障探究技術の向上に役立てる。
使用教科書・副教材等	二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーにて一般整備・点検整備・車両検査業務などの実務経験あり

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	授業態度	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期				
	後 期	① 電子制御噴射装置の故障と探究 ② ジーゼルエンジンの故障と探究 ③ 電装品・シャシの故障と探究 ④ 自己診断機能による点検	10	車両の維持管理やガソリンエンジンの基本的な点検方法を理解する。	①～③
			11	ジーゼルエンジン・電装品・シャシの基本的な点検方法を理解する。	
			12	自己診断機能による点検方法を理解する。	
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

教科書をベースに作成したパワーポイントにて動画やシュミレーターを駆使し構造や作動の講義を行います。
また、部品単体等を用意し現物確認をしながら教科書と二級自動車整備士試験との関連を深めて国家試験対策に繋がります。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
対策授業	講義		0	8	12	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	真境名・宮城
			0	192		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	二級自動車整備士取得に向けた学科合格水準まで到達させる。
使用教科書・副教材等	二級自動車整備士(総合)
教員実務経験	サービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員の経験

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 80%未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	模擬試験	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期		4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
	後 期	① 総合二級自動車整備士国家試験対策	10	①自動車整備士国家試験対策 総合二級自動車整備士国家試験に向けた 国家試験演習。	①
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
関係法規	講義		1	1	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	阿波連 毅
			20	12		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車整備士と関係法令との関連性を深め、将来自分で自動車整備工場を立ち上げるための認証基準や指定整備事業等の設備を学び、2級整備士に必要な知識を習得する。
使用教科書・副教材等	自動車整備士の法令教本(公論出版)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	(車両法)	4	①法令の基本。法律、政令、省令、通達といった体系の理解を深める。	①～④
		①自動車の種類	5	①自動車の種類の定義や種別について学習する。	
		②登録制度	6	②登録制度の必要性について理解し、登録の種類について学習する。	
		③保安基準	7	③～④保安基準内での自動車構造や装置を理解し、点検整備の種類や点検時期、規則等を学習しながら知識を深めさせる。	
		④点検整備制度	8		
	後 期	⑤検査制度	10	⑤検査の種類や実施方法について学習し、自動車検査証の有効期間や記載事項についての知識を深めさせる。	⑤～⑧
		⑥認証制度	11	⑥分解整備事業者の種類や認証基準について学習し、整備事業者の義務や遵守事項について理解を深める。	
		⑦指定制度	12	⑦～⑧分解整備事業者の認定基準や設備について学習する。記録簿の記載や事業者の罰則をしっかりと理解し知識を深める。	
		⑧その他			

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
検査法	講義		1	1	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	阿波連 毅
			20	12		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車整備士と道路運送車両法の保安基準や道路運送車両法の細目を定める告示等との関連を理解する。整備士に必要なと思われる一般的な車検整備や完成検査作業に活用させる。
使用教科書・副教材等	自動車整備士の法令教本(公論出版)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	①自動車の構造	4	①構造用語と定義について理解させる。	①～④
		②自動車の装置 (原動機及びシャシ関係)	5	①自動車の長さや重量、安定性について学習する。	
			6	②自動車に装備される各種装置に関して学習し、理解を深める。	
		③自動車の装置(車体関係)	7	③～④車体関係の各種装置に関して学習し、公害を防止するための装置について理解を深める。車検整備作業に必要な知識を習得する。	
		④自動車の装置(公害防止)	8		
	後 期	⑤自動車の装置(灯火装置)	10	⑤灯火装置等の性能や取付け基準について学習する。	⑤～⑦
		⑥自動車の装置(運転操作)	11		
		⑦緊急自動車等	12	⑥～⑦警音器や非常用信号用具、特殊車両について学習する。	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
応用実習	実習	年単位時間	21	21	学 年	二年次
			前期	後期	教 員	真境名・宮城
			420	420	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	学科で学習した内容を基に実際に作業することにより理解を深め、作業要領を習得し実践に向けた整備技術・点検、検査技術を習得する。
使用教科書・副教材等	二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	サービスエンジニアとして一般整備、点検・車検整備、自動車検査員の経験

2 追試験基準

前期	実技試験 50%未満
後期	実技試験 50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	実技試験	30 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
	提出課題・レポート	30 %			%
	出席率	10 %			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① 12ヵ月点検 ② ドライブシャフト ③ 24ヵ月点検 ④ 2輪車(応用) ⑤ ジーゼルエンジン分解 ⑥ オートマチックトランスミッション	4	①12ヶ月点検概要及び記録簿の記載方法を習得する。 ②ドライブシャフト装置の構造理解し、分解・脱着方法を習得する。 ③24ヶ月点検概要及び記録簿の記載方法を習得する。 ④2輪特有のエンジン構造を理解する。 ⑦ジーゼルエンジンの構造及びガソリンエンジンとの違いを理解する。 ⑥オートマチックトランスミッション分解及び構造を理解する。	①～⑥
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
	後 期	⑦ 完成検査 ⑧ エーミング・HVバッテリー ⑨ エアコンディショナ ⑩ ブレーキ装置(応用)	10	⑦道路運送車両法及び継続検査の判断基準を理解する。 ⑧エーミングの必要性、作業方法及びHVバッテリーの作脱着方法、作業に伴う高電圧の取扱いの注意点を習得する。 ⑨エアコンディショナの構造及び点検方法、整備方法を習得する。 ⑩ブレーキ装置、真空倍力装置、エアブレーキ装置など構造及び点検方法を習得する。	⑦～⑫
			11		
			12		
		⑪ 電子制御装置 ⑫ 故障探求	1	⑪電子制御装置の理解及びOBD2故障診断器の取扱いを習得する。 ⑫故障探求する際の考え方、実際の不具合を点検、修理との一連の作業を実践的に行い学習する。	
			2		
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
就職実務Ⅱ	講義		1	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	・就職後のビジネスマナーの周知 ・福利厚生の仕組みを周知(給与明細、年金制度)
使用教科書・副教材等	ビジネス実務マナー検定 2級・3級
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	成績評価の50%未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 二 学 年	前 期	【ビジネス実務マナー検定】 基本マナー 会話マナー 接客マナー ビジネス文書	4	1.基本マナー 身だしなみや、ハウレンソウなどの働くうえでの基礎を学。	前期試験
			5	2.会話マナー 尊敬語、謙譲語、丁寧語のTPO、応用を学習。	
			6	3.接客マナー 挨拶、名刺交換、訪問の際のノーハウを学習。	
			7	4.ビジネス文書 ビジネス文書の基礎知識を学習。	
			8	5.社内文章 文書の種類と基礎知識を学習	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

--